

## 東奥日報

2020年(令和2年)10月29日(木曜日) (17)

## エネパーク記念品制作へ



六ヶ所核融合研究所を訪れ、研究内容についての説明を聞く学生たち

## 八工大生 見学者向け来年度配布

### 六ヶ所

六ヶ所村内の多様なエネルギー関連施設を見学する「次世代エネルギーパーク」

事業をアピールしようと、村観光協会は八戸工業大学と協働で、同パークの見学者に配る記念品作りに取り組んでいる。同大感性デザ

イン学部創生デザイン学科の授業の一環として、学生が自分たちで考えたデザインを基に制作。2021年1月に発表会を開いて採用作品を決め、21年度から見学者に配布する予定。

村は08年に経済産業省の認定を受け次世代エネルギーパーク事業を開始。現在は村観光協会が窓口となり12施設の見学予約を受け付けており、19年度は約1300人が施設を訪れた。

記念品はステンレスを材料に、レーザー加工で制作する予定。六ヶ所エンジンリンクが材料提供や加工機の利用などで協力する。24日には学生8人が教員2人と一緒に六ヶ所村を訪問。村特産品販売所「六旬館」で村観光協会の及川次夫会長が「村とパーク

に対する見識を深め、制作に生かして」とあいさつした。

学生は村内を回り、施設の内部に入ったり、バス車窓からエネルギーパークの各施設を眺め、記念品へのイメージを膨らませた。量子科学技術開発機構・六ヶ所核融合研究所では池田佳隆所長から施設の概要説明を受けた。

2年・田沢陽菜さん(19)は「資料を見ただけでは分からないことも知ることができました。エネルギーパーク事業が、もっと広まるようにと願いながら制作に臨みたい」と話した。八工大の宮腰直幸教授は「学生にとっては、アイデアを実際に形にする過程で生じる不具合の解消方法や、仕上がりコスト面をどう両立させるかを考える場になる」と話している。

(岡田圭逸)

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」